

# 博物館 Dictionary No.248

～あなたに語る・時代を超えて生きる心～

てんじ 展示中の作品について、研究員がわかりやすく かいせつ 解説します。

## 地下に願いを

タイムカプセルを埋めたことはありますか？ 大切な人からの手紙や思い出の品を土の中に埋めて「未来」へ届けるタイムカプセルは、実は現代だけのものではありません。大切な品々を地中に埋める行為は、はるか昔から繰り返し行われてきました。

### 埋納って何？

地面の下から発掘されるものは様々です。恐竜の骨や、人が食べたあとに捨てられた貝殻など、かつて地上に存在していたものが、長い時間の中で土の中に埋もれて、ひょんなことから見つけ出されることがあります。こうした、たまたま土の中に埋まってしまったものではなく、タイムカプセルのように人が目的をもって土の中にものを埋めることがありました。これを「埋納」と言います。

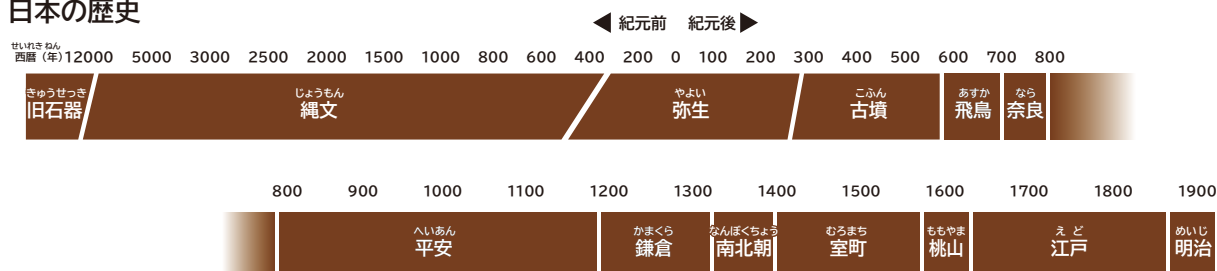
### 何を埋納した？

埋納されたものは、時代や場所により様々です。例えば古墳時代には、建築物を建てる時や壊す時に、柱を立てる穴に土器を埋納する例が多く見られます。やがて仏教が日本に伝わると、各地に多くのお寺が建てられました。奈良県明日香村にある飛鳥寺では、飛鳥時代に建てられた塔の跡から仏舍利（お釈迦さまの骨）や、おごそかにするための飾りが見つかっています。



図1 瓦質外容器・銅製経筒 出土地不明 京都国立博物館蔵

## 日本の歴史



・京都国立博物館では「文化の流れ」をもとにして時代を分けています。

そのため学校で習う「政治の流れ」をもとにした時代の分け方と少し違うところがあります。

奈良時代の平城京には、人が多く行き交う場所に胞衣壺が埋納されました。胞衣とは、赤ちゃんがお母さんのお腹の中にいるときに、お母さんから栄養をもらう胎盤のことです。胞衣壺には、胎盤とともに筆や墨、刀子（ナイフ）が埋納された例もあります。

平安時代の終わりごろには、仏教の教えを記したお経を埋納する経塚が造られるようになりました（図1）。お経と聞いて思い浮かべるのは、紙に墨で書いたお経でしょう。しかし、紙を土の中に埋納すると、時間が経つとぼろぼろになってしまいます。そこで、紙よりも丈夫な素材に、お経を書くことが行われました。たとえば、粘土板に書いた瓦経（図2）や、薄い銅の板に書いた銅板経などがあります。

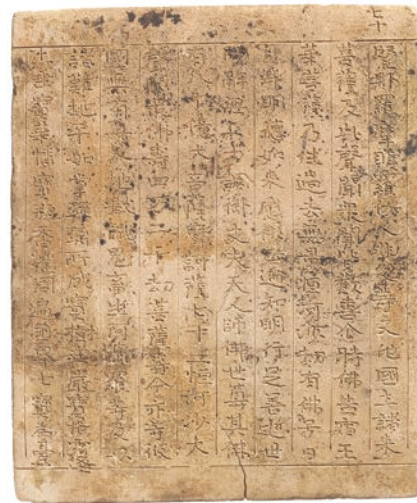


図2 瓦経 福岡市西区飯盛山経塚出土  
京都国立博物館蔵

### 何を願って埋納した？

土の中から発見されたものが、どのような理由で埋納されたのか、私たちは知りたと思いますが、それはそう簡単なことではありません。例えば、先ほどの胞衣壺に筆や墨などの文房具が納められた理由も、これらが役人の持ち物であったため誕生した子どもの出世を願っての埋納であろうと考えられていますが、はっきりとは分かりません。

しかし埋納品の中には、埋納した目的や理由を書き記しているものもあります。経塚に埋納されたお経の容れ物には、何を願ってお経を埋めたのかがしばしば書かれています。そこには、56億7千万年後という気の遠くなるような未来にまで、埋納するお経を伝えることが願われています。過去に生きた人々が、願いを言葉や形にして、地面の下に埋めておいてくれたおかげで、今を生きる私たちは彼らの願いを知ることができるのです。（図3）の絵瓦には、両手を合わせて祈りをささげる人の姿が表されており、これは



図3 線刻瓦（僧形）京都市西京区桧原盆山出土 京都国立博物館蔵

は願いを込めてお経を埋納したお坊さんの姿であると考えられます。あなたは、どんな願いを地下に残したいですか？

（美術室 大谷弦）